

雪の日や寒い日もありますが、日差しに春らしさを感じるこの頃。草木の目覚めもうすぐですね。



石神の丘美術館通信《いしび》

ishibi

2008.3.1 Vol.65

2月10日(日)美術館ホールでは、「手づくり講座 フェルティングニードルでつくるメッセージタグ」を開催しました。参加者のみなさんは羊毛や毛糸のふわふわとした感触を楽しみながら、かわいらしいタグを完成させました。3月2日(日)には、手のひらサイズの巻物をつくる講座を開催する予定です。

企画展示室では、3月9日(日)まで美術館収蔵作品を「色」に注目して紹介する展覧会「石神の丘美術館コレクション展 色を感じてみよう—美術作品から知る色彩効果」、3月15日(土)からは「第9回 発掘された岩手町の遺跡展—20年の歩み展」を開催します。

今回の「発掘された岩手町の遺跡展」では、岩手町教育委員会が行ってきた20年に及ぶ発掘調査の歩みを数百点の土器や石器で紹介するほか、写真や道具を通じて発掘調査の方法についても紹介します。展示品の中には遮光器土偶(しゃこうきどぐう)や土面(どめん)など貴重な遺物もあり必見です。会期中ホールには、体験コーナーを設けるほか講演会や拓本教室の開催も予定しています。〈見て〉、〈聞いて〉、〈触れて〉古代の暮らしや文化へ思いを馳せてみませんか。

## 第9回 発掘された岩手町の遺跡展

20年の歩み展

観覧無料

会 期:2008年3月15日(土)~4月13日(日)

開館時間:午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

休 館 日:3/17(月)、24(月)、31(月)

会期中には講演会や拓本教室も開催されます。詳しくは中面をご覧ください。

# アートサイト

## 松田松雄のこと

岩手の美術を語るとき、避けて通るわけにはいかないひとり、松田松雄がいる。松田松雄は、陸前高田市出身で、高校卒業後、いったん就職したのだが、画家として生きることを決意して勤めをやめ、志を通して画家になり、いわき市を拠点として活動した。

まっすぐな人間で、邪心のない、だれにも好かれる男であった。絵は独学で、模倣を嫌い、独自の世界を切り開いたのだが、志し半ばで逝ったことが惜しまれてならない。

彼の作品は、モノクロームで、青と白、黒と白という配色が特

徴で、風景のなかに人物を置いていた。人物はいずれも、角巻(かくまき)のようなものを纏い、うつむいた姿で描かれている。顔(表情)は描かれず、絵全体で、モチーフを表現したと

いっている。人間が本源的に持っているうしろもなない哀しみ。それが松田松雄が追求した主題だったのではないかと私は思っている。絵からは、生きていたことの哀しみ、辛さ、嘆きといったものが、冷気のように伝わってきて、観るものの心を捉えた。

人間には、喜怒哀楽がある。なのに、松田松雄は、何故そのなかから哀を選んだのか。恐らく人間の感情のなかで、「哀」こそが、もっとも本質的なものであると考えていたからではなかったか。

松田松雄は、哀しみを描いた

が、本人は決して暗い人間ではなかった。部屋中に響くような大声で話し、快活に笑う男であった。話す内容は、すべて直球といていいほど裏表がなかった。一夜遅くまで話し込んだ日、私たちは表現を促すものは「愛」であるという結論に至ったのだが、哀と愛は表裏一体であるという前提にたつてのことである。

松田松雄は、毎年、冬の最も寒い時期に盛岡を訪れていた。一年に一度は寒風にさらされないと、だらけるから」とその理由を語っていたことを懐かしく思い出す。そんな松田松雄を私は好きだった。もちろん絵も好きである。だが、彼はもういない。

(芸術監督・六岡 康光)

# 第9回 発掘された岩手町の遺跡展

## 20年の歩み展

2008年3月15日(土)～4月13日(日)

岩手町教育委員会が町内の発掘調査をはじめから、今年で20年。この調査は、多くの町民の方の理解と協力のもと進められてきました。

この展覧会では、これまでに調査が行われてきた12の遺跡(桜遺跡、高梨遺跡、秋浦I遺跡、秋浦II遺跡、上境田遺跡、仙波堤遺跡、東の沢遺跡、大股開拓遺跡、黒内VIII遺跡、黒内IX遺跡、豊岡遺跡、川原木遺跡)から出土した土器・石器およそ300点を紹介します。また、町内で発見された遮光器土

偶や土面も特別に展示します。

ところで、発掘調査はどのように行われているのでしょうか? 今回の展示では、発掘調査の様子を多くの写真で紹介するほか、実際に発掘調査で使用する道具や測量機材も展示し、発掘についてわかりやすく紹介します。

ホールの体験コーナーでは、土器の接合(せつごう/土器の破片をパズルのように組み合わせること)や縄文土器に特徴的な縄目模様をつけてみるができます。ぜひ、挑戦してみてくださいね。

### 関連行事

#### ★記念講演会

3月16日(日) 午後1時30分から(聴講無料)

「世界遺産に向けて—奥州藤原氏と平泉文化」

金野静一氏(元岩手県立博物館長)

#### ★土器の拓本教室

3月22日(土)、23日(日) 午後1時30分から(参加無料)

土器破片の縄目文様を紙に写し取ります 30名程度

これ、な〜んだ! 今回展示される遺物のひとつ  
《どじの沢の土面》

この土面は、昭和23年に発見されたもので、縄文時代晩期のものだと考えられています。大きさは12cm程度。左上が欠損していますが、目・鼻・口がはっきりと判ります。



### 開館時間のお知らせ

石神の丘美術館の3月の開館時間は、〈冬時間〉のため通常午前9時から午後4時までですが、

3月15日(土)「発掘された岩手町の遺跡展」初日から開館時間を〈夏時間〉と同様にし、午前9時から午後5時までとします。

なお、

3月中の毎週月曜日は休館します。

4月からの休館日はありません。

### 石神の丘美術館芸術監督 六岡康光(むつおかのぶあき) 『美への往還』が 発売になりました

これまで展覧会図録や石神の丘美術館通信「アートサイト」に書いた文章などが『美への往還』として一冊の本になりました。美術館受付で販売しています。

【1冊 2,000円】



### 美術館隣接 道の駅/レストラン「石神の丘」情報

このコーナーのお問合せ・ご予約は 道の駅「石神の丘」 TEL0195-61-1600まで

### 春一番祭り

3/20(木・祝)10:00～15:00  
道の駅・イベント広場

3月。北国にもそろそろ春の気配がただよう頃ですね。「春分の日」の3月20日(木・祝)、道の駅では、お彼岸用の花や、新鮮なお魚、しぼりたての牛乳などを用意して「春一番祭り」を開催します! ひと足早い春を探しに出かけませんか。お待ちしております。いま〜す。



### ★★スペシャルコース料理★★

### 北緯40度の味めぐり

岩手県北を通る北緯40度線。この線上に位置する市町村の〈美味しいもの〉をたっぷり味わえるコース料理ができました。(全9品 3,500円/上記へ要予約)

八幡平市の「ほろほろ鳥」「杜仲茶ポークの生ハム」/岩手町の「ねばり芋」「奥羽牛」「やまと豚」「菊池牧場の牛乳」「ブルーベリーワイン」/葛巻町の「山ぶどう」「葛巻高原牧場のチーズ」/岩泉町の「龍泉洞の水」/普代村の「わかめ」「ソイ」「アイナメ」

どの食材がどんな料理になっているでしょうか。ぜひ、この機会にご賞味ください。